

平成 28 年度

高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 自己評価報告

1. 実施方法

自己評価表は『専修学校における学校評価ガイドライン』(平成 25 年 3 月)をもとに作成し、全職員によってそれぞれの項目について点検、評価を行った。評価は、「1 (不適切)～4 (適切)」の 4 段階評価とし、併せて可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

2. 自己評価の項目と内容

自己評価は、次の 10 を大項目として、質問・回答形式で行った。

- | | | |
|----------------|---------|-----------|
| (1)教育理念・目標 | (2)学校運営 | (3)教育活動 |
| (4)教育成果 | (5)学生支援 | (6)教育環境 |
| (7)学生募集 | (8)財務 | (9)法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域連携 | | |

3. 自己評価結果 総括

(1)教育理念・目標

教育理念は高岡第一学園の建学の精神に掲げており、学園全体で志しているものである。学校の教育目標は、建学の精神をもとに定められている。これらの教育理念・目標について、教職員は熟知し、新入生オリエンテーションを始めとして折に触れて学生にも伝えている。保護者には父兄後援会において説明している。また、ホームページや学校案内にも記載しているが、今年度よりスマホ対応のホームページになったことにより広く周知できるようになった。

(2)学校運営

年度当初に事業計画の策定を行ったうえで、定期的に各運営会議(教職員会議・成績会議等)や日々の朝礼等を通じ、学校運営の進捗状況や課題などを全職員で共有している。

教育活動に関する情報公開に関しては、ホームページや学校案内で行っているが、ホームページの更新がままならないのが現状である。一部を業者に委託しながら必要最低限の更新で対応している状態である。今後、出席停止の連絡票などをダウンロードできるようにするなどより利便性のあるホームページ作りをすることも課題である。

(3)教育活動

教育課程および授業時間数、学則は変更や追加などがある場合に所管の富山県に提出・承認をいただいております、適切な学校運営を行っている。

③カリキュラムの策定

幼稚園教諭、保育士養成施設として、法に則った体系的なカリキュラムを組んでいる。現在定期的に幼稚園関係者等から意見を聞く機会を設けており、H29年度カリキュラム委員会のメンバーを検討する予定である。

⑥校外実習・職業教育

卒業後の就職・職種が明確であるため、具体的な職業教育を行うことが可能である。1年次から通常の授業カリキュラムにおいても、将来の職業ニーズを盛り込んだ授業を展開している。

資格取得のための正規校外実習は1年後期からである。しかし、職業意識や実践能力を高めるため、1年次より附属幼稚園での短期実習を取り入れている。希望者には夏期、春期休業中にインターンシップの要素を持つ希望実習も推奨し就職に向けての意識を高めている。またH25年度より、2年次の2月にも附属園に短期の実習を取り入れ、4月からの就職を見据えた指導をしていることに加え、H28年度からは学園の保育園でも短期実習を取り入れ、より実践力を高めるためのカリキュラムを工夫している。

⑧職業教育に対する外部関係者からの評価

H28年5月、第1回学校関係者評価を実施した。評価委員は外部から4名と本所の職員4名から構成され、H27年度の自己評価についての意見交換や、H28年度の重点目標について話し合いを行った。今後も外部からの評価や意見を広く取り入れてより良い学校運営に取り組んでいきたい。

(4)教育成果

H28年度の重点目標の1つに①集団の中において他者と協力し、課題に取り組む対人関係能力を身につけるがあり、学校行事の様々な場面において意識して活動してきた。学生会の今年度の目標を、「けじめをつける 仲間と協力する コミュニケーション能力を身につける」と掲げ、6月の幼教祭では、「ようこそ幼教カーニバルへ～愉快的仲間と一緒に過ごそう～」をテーマに学年を超えて協力して取り組んだ。その他、年間を通して下記のような授業や行事の中で仲間と協力しながら進めてきた。

1年…幼教祭・連合演奏会（オペレッタ）・クリスマス会・予餞会・保育実習報告会など

2年…幼教祭・附属幼稚園実習・各実習報告会・連合演奏会（幕間）・お聞かせください会
卒業記念演奏会など

①就職率

求人が多いこともあり就職希望者の内定率は100%であった。公務員採用試験受験者も複数いるため、対策として年数回の就職模擬試験を実施している。進路・就職に関する支援体制は担任が中心に個別に十分に行っている。

③退学率

退学者は28年度1年生0名、2年生1名であった。休学者は1年生1名、2年生0名であった。前年度からどちらの学年も退学率、休学率ともに低減された。引き続き学生の欠席状況などの迅速な把握とともに対応を早め、きめ細かく対応していきたい。

(5)学生支援

進路・就職に対する支援体制は2学年の担任中心に個別に対応している。経済的な支援に関しても日本学生支援機構の奨学金をはじめ、学費分割納入制度など複数の支援体制で対応している。課外活動に対する支援体制、学生の保険に関しても必要な支援体制は整っている。しかし卒業生の把握は難しく、再就職を希望する卒業生には求めに応じて就職支援相談を実施して

いるが、積極的な支援体制はとっていない。

(6)教育環境

専門教育に必要な設備・施設は十分に整えられているが老朽化している。継続的な課題として、図書の実充があげられるが、予算内で定期的に購入し、質・量の拡充をはかりたい。防災については、毎年防災計画を策定し、災害発生時マニュアルをもとに年一回の避難訓練を実施している。

(7)学生募集

学生数の減少が危惧されたため、H28年度の重点目標に②学生募集を掲げ取り組んだ。ホームページが古かったため、高校生が閲覧しやすいようにスマホ対応にし、広く学校を知ってもらえるようにした。しかし、更新を頻繁に行うことができていないのが引き続きの課題となっている。

また、例年6月に学校説明会を主催しているのだが、H28年度はとりやめ、教員が高校に足を運び丁寧をお願いする形にした。

結果は、H29年度の新入生も少なく、より一層の工夫と努力が必要とされることが浮き彫りとなった。職業訓練生も減少しており、来年度はより一層PR活動をし、学生の獲得にむけて取り組んでいかなければならない。

(8)財務

学校の財務基盤は中期的には安定していると言えるが、長期的には少子化の影響で入学者の減少も考えられる。

予算・収支計画は毎年本学園の理事会にて予算報告を行い、理事の承認を受けている。また、財務については学園本部でとりまとめ、会計監査が適正に行われている。

(9)法令等の遵守

設置や運営に関する法令は遵守しており、厚労省、文科省、所管の富山県文書学術課の指導を受けながら適正に運営がなされている。

自己評価はH26年度に第1回目実施。H27年度は3月に実施。問題点を話し合い、改善に向けて取り組む流れである。ホームページでの公開もH27年4月よりしている。また、H28年8月より学校関係者評価のホームページ上での公開もし始めた。

(10)社会貢献・地域連携

H28年度の重点目標のひとつが③地域貢献であったため、学校としてどのような地域貢献が可能か話し合い、「学生」「教員」「施設」に分けて今年度実施したものを分類してみた。

【学生】

- ・高岡市立図書館読み聞かせボランティア(7月～)
- ・各ボランティア活動
- ・選挙啓発サポーター 参加
- ・北日本新聞 クリスマス会 オペレッタ上演

- ・若者による市長候補者体験セミナー～私たちの夢を実現するために～ 参加

学生へのボランティア依頼は多いが、授業に差支えない限り要望に対応している。H28年度より高岡市立図書館の依頼で月1回の読み聞かせボランティアを実施。地域との連携を深めるとともに、学生の図書利用を促進していきたい。ボランティアの参加は、レクリエーション・インストラクターの単位修得につながるため、学生の希望者も多くH28年度の延べ数は205名に上る。今後も引き続き推奨していく。

【教員】

- ・牧野みどり 保育園 出前講座 講師
- ・ファミサポ子育て支援ネットワーク 講座 講師
- ・高岡市家庭教育推進サポーター養成講座 講師
- ・八尾中学校合唱指導及びコンサート出演
- ・アートM実行委員会 会長
- ・五環の森クルー
- ・富山県スポーツ推進審議委員
- ・砺波青少年自然の家 運営委員

教員はそれぞれの専門分野をもっているが、その持ち味を生かして外部からの依頼で講師や委員をしている。今後も依頼があった時は積極的に引き受け、地域に貢献していきたい。

【施設】

- ・特別講座会場提供
 - ・6/29 認知症サポーター養成講座
 - ・6/27 高岡市選挙管理委員会出前講座
 - ・7/11 放課後児童クラブ支援職員マッチング事業
 - ・1/24 年金セミナー

学生向けの特別講座の依頼には、授業に差支えないよう日程調整をしながらできるだけ要望に応じている。学生にとっても社会勉強の良い機会となっている。

【その他】

幼児教育者の資質向上のため、県内の幼稚園教諭・保育士向けに年に一度「幼児教育講座・講習会」を開講している。H28年度は創立50周年であったため、8月に幼児教育講座、9月に幼児教育講習会と2回実施した。

以上のことを踏まえ、H28年度は学校としてあらゆる面から地域貢献してきたと評価したい。今後も地域のニーズに応え、学生に有益だと思われることには積極的に取り組んでいきたい。

以上